
姉ちゃんかよッ！

えんぴつ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

姉ちゃんかよッ！

【Nコード】

N9671B

【作者名】

えんぴつ

【あらすじ】

ある日、親父が若い女のコを家に連れてきた。まさか、親父の彼女？よくよく顔を見ると、なんとそのコは、俺の片思いの彼女だった……。一体なに？どうしたの？

(前書き)

改行とか、字詰めとか、どうすれば一番、読みやすいのか、まだ悩んでいます。これがケータイでは一番読みやすいのかなあ。ご意見くださるとありがたいです。

てるんですけど。

って、そのコがなんでウチに？

なんで親父が連れてくるの？

親父との関係は？

大事な話って？

いつもは回転の鈍い俺の頭も、さすがにこんな事態のときは高速回転してくれるみたいで、一瞬の間にこれだけのことを頭に浮かべつつも、俺はアタフタと彼女にあいさつし、親父に「早く説明しろよ」と目で訴えた。

「ん？ なんだ達郎、ナツミのこと知ってるのか？」

「いや、初対面」

彼女がクスリと笑った。

「私、ナツミ。よろしくね。弟の達郎くん」

へ、なに？ 最後にこのコ、なんて言ったの？

弟？

俺が？

「ま、そういうことだ。達郎。お前の姉さんだ。母さんの一周忌も過ぎたし、ま、いろいろあって一緒に暮らした方がいいかなあってな、ナツミ」

「うん！」

この2人、一体なに言ってるの？

マジ付いていけないんですけど、俺。

「よかつたな、達郎。こんなきれいな姉さんができて。でも、血の繋がったホントの兄弟なんだからヘンな気起こすなよな。父さん、それだけが心配で。なんせ俺のコだから、アハハハ」

って、笑いながら風呂に行っちゃったよ。

「びつくりしたあ。まさかあんたが弟だったとは。よかつたあ、メールしないで。マジ、やばいんですけど」

「だよー。って、なんで兄弟なの？」

俺はなーんにも知らなかったけど、ナツミはもちろん全部知っていて、俺が納得するまで説明してくれた。

もちろん、すぐには信じられるような内容じゃなかったけどね。

親父はお袋と結婚する前に付き合っていた彼女がいて、でも親に反対されて泣く泣く別れ、親類に紹介されたお袋と結婚させられたそ

うだ。

その時、別れた彼女は妊娠していて、彼女を生んだ。

ナツミの母親は女手ひとつで彼女を育て、2年前、ガンで亡くなった。

医者から余命半年と告知を受けたナツミの母親は、ナツミの将来のことを思ってたか、それとも最後に親父に会いたかったのか、とにかく別れてから一度も連絡をしなかった親父に連絡した。

当然、親父は病室に飛んで行き、はじめて自分にナツミという娘がいることを知った。

ナツミからすれば、ずっと18歳になるいままで、父親は死んだと教えられてきたのに、いきなり目の前に父親が現れたんだから複雑だ。

まあ、いろいろ葛藤はあったみたいだけど、親父はナツミの存在を知らなかったんだから憎むのも違うし、とにかく親父はやさしかったんだって。ナツミの母親にもナツミにも。

そういえば、その頃から仕事が忙しいってあまり帰って来なかったっけ、親父。

ん、ということとは、親父は元カノと妻を立て続けに失ったわけか。その割りには明るいなやつは。

「そこがいいとこなんじゃん。かっこいいよ、親父」

そんなもんかね。って、俺がいま一番好きな女のコが、俺の親父のことを親父って呼んでるし。

「ま、そういうわけでわたしがひとつ年上のお姉さんってわけだから、よろしく頼むよ、弟。いくらでも映画に行つてやつからよ。で、姉を映画に誘つて、その後どうする気だったの？ わ、キシヨイ」
もー、マジ恥かしいんですけど。

翌日、ナツミは我家に越してきて、3人での生活がはじまった。

大好きな女と一緒に暮らすことはうれしいが、それが姉なのは悲劇だ。

俺は自分の気持ちをどう整理したもんだか、かなり苦しい立場に置かれていたが、そんなことお構いなしに姉のナツミはノビノビと我家に溶け込んでいった。

兄弟だもんなあ、諦めるしかねーよな。

でも、バスタオル1枚で風呂から出てくる姿や、干してあるかわいらしい下着を見ると、たまらんのよ。

俺はこの狂おしい気持ちを勉強にぶつけた。

親父もナツミも軽すぎる。俺はあいつら2人と距離を置いて、1日も早く自立するんだ。

リビングからは2人が酒を飲みながら、大笑いしている声が聞こえ

てくる。

ナツミは親父がいなかったんだもんな。甘えて、当然だよ。

あーなんで俺、先にナツミと出会って好きになっちゃったんだろ。じゃなきゃ3人でああやって笑えたのに。

んー勉強だ、勉強だ。くそー。

そんなこんなで3ヶ月。

ある時、ナツミが俺を居酒屋に誘った。知り合いの店らしい。

「いい加減、諦めなって。自分の姉ちゃん好きになってもしよーがないだろ。男らしくくない？ ウジウジして」

そう言いながら、中ナマを半分くらい一気飲みしてゲップをした。

確かに最近、イメージは崩れてきたけど……でも、かわいい……。

「んなこと言っても、先に好きになってから兄弟だって知ったわけだし……」

「順番は関係ないの。分かった、ナツミお姉さまが女紹介するしかないな。今度、合コンしよ。軽そうなの見繕うから。決定」

って、弟に軽そうな女紹介するんかい。

と、そこにモロやばそうなヤンキーがやってきて、いきなり低い声で、「てめえ、なに人の女とよろしくやってんだよ」と凄まじれた。

ナツミが「関係ないよ。弟だからさ」と言っても、俺は表に出され、俺ではなく、必死で止めるナツミに向かって、その男が手を挙げようとした。

そこから先はよく覚えていない。

どうやら俺は、その男に体当たりしてボコボコにされ、ナツミは半狂乱になり、だれかが警察を呼んだようだ。

その男はナツミの元カレで、別れて半年以上経つのにストーカーのようにつきまとっていたという。

恐怖を感じたナツミは親父に相談し、ウチに来ることになったらしい。

だったら、そんな男が来る可能性のある店に行くなよ……。

「達郎、ごめんね」

病院で全治2週間の診断書をもらい家に着くと、ナツミは俺に謝った。

「フツーにむかつくんですけど。姉ちゃんに手を挙げられたら」

ナツミは俺を抱きしめ、頬ずりしながら「かつこいかったよ。弟でなきや惚れてた」と、泣いた。

「弟にそれヤバくない？ それより、姉ちゃんは男を見る目なさ過ぎ。今度、紹介してやるよ。真面目な男を。決定」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9671b/>

姉ちゃんかよッ！

2010年10月11日15時09分発行